

国立大学法人神戸大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

神戸大学は、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を養成することを使命としている。第2期中期目標期間においては、平成18年度に策定した「神戸大学ビジョン2015」に掲げる世界トップクラスの教育研究機関となること、また、卓越した社会貢献と大学経営を行うことを全構成員が共有し、その実現を目指すことを基本的な目標として定めている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「神戸大学ビジョンの実現に向けたアクションプラン2013」の策定・実施や国際学術交流の推進体制の強化等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、海外の優れた大学・研究機関・研究者グループとの組織的な連携・協力の促進を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、「日EUイノベーション・科学・技術協力強化プロジェクト(JEUISTE)」への参画や、国内4大学・EU6大学で構成するコンソーシアム「日・EU間学際的先端教育プログラム(EU-Japan Advanced Multidisciplinary Master Studies)」における主導的な役割を果たしているほか、「神戸大学日欧連携教育府」の設置、EU圏の大学とのダブルディグリープログラムの締結等に向けた取組等により国際学術交流の推進体制の強化等を図っている。

(機能強化に向けた取組状況)

社会科学分野において伝統と実績を有する総合大学としての強み・特色を生かし、「メリハリのある全学的な学内資源の再配分により、文理融合を進めながら、重点分野における世界トップレベルの教育研究を実現」することとした機能強化の方向性を決定し、これに基づき、「文理双方の分野(イノベーション・ビジネス)において、グローバルの舞台で活躍できる実務家」を育成することにより、社会への貢献を果たしていくための方策について、検討を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「神戸大学日欧連携教育府」の立ち上げを始めとする日・EU間における連携や神戸大学統合研究拠点における先端融合研究の支援及び事業展開に向け、特命事務組織として、企画部課(日欧連携教育府担当)及び研究推進部課(ポートアイランド地区

事務担当)を設置し、機動的・効率的な業務運営を実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①資源配分、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、
③経費の抑制、④資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④広報活動の充実)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 環境報告書の作成や環境マネジメントについての取組・検討において、学生目線での意見を取り入れるとともに、これまで教職員中心で実施してきた環境キャラバン(環境に係る現状視察)を学生団体中心で実施し、エネルギーの無駄遣い削減を推進しているほか、大学が実現に向けた支援を行うことで自らの意見が大学の環境に対して影響力を持つことを自覚してもらうこと等を目的とした「エコアイデアプレゼン大会」を学生からの提案により実施している。
- 災害等の異常発生時にも大学基幹事務を継続させるため、外部コンサルティングを活用して平成 23 年度に策定した IT-BCP (ICT 関係業務に関する事業継続計画)に基づき、平成 25 年度は IT-BCM (事業継続マネジメント)の一環として、各インシデントにより起こり得るリスクシナリオの設定と具体的な対応方法を検証し、計画書の一

部改訂を行うとともに、本計画の概要及び実施訓練に関する成果を国立大学法人等情報化連絡協議会主催の情報化発表会において発表し、他大学との意見交換を行っている。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- インターネット上の共有サイトにおいて個人情報が見覧可能となっていた事例、フィッシングメールにより個人情報が漏洩した事例等、個人情報の不適切な管理事例が多数（計 4 件）あったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントの強化に一層努めることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 23 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、個人情報の不適切な管理事例が多数あったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学共通授業科目に「グローバル共通科目」（18 科目）や各学部の専門科目に「グローバル専門科目」（71 科目）を開講するとともに、英語外部試験のスコアに基づき習熟度別クラスを編成し、学部 1 年次後期から 2 年次前期にかけて、すべての授業を英語で行うグローバル英語コース（GEC）をネイティブ教員による少人数クラスで開講している。
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構と研究協力協定を締結するとともに、社会科学系分野の学際的理論研究を幅広く行っている社会科学系教育研究府社会科学先端リサーチ・ユニットの実施プロジェクトの一つとして、「現代中国研究拠点」を設置するなど、現代中国地域研究を総合的に推進している。
- 3 大学（京都大学、大阪大学、神戸大学）の理念、特色、立地環境等を生かし、自主自律を尊重しつつ、教育、学術研究、社会貢献等の機能について一層協力するとともに、世界トップクラスの研究大学としての各大学の機能の強化とその成果（アウトプット）をもって我が国及び国際社会に貢献することを目的として、平成 25 年 12 月に「三大学における相互の協力に関する協定」を締結している。
- 地域の高校生を対象に、明石康特別教授（元国連事務次長）を始め教員がサポートしつつ、高校生 15 名、法学部 1 年次生 11 名、国際政治学を専門とする大学院博士課程学生 2 名が 2 人 1 組となり、各国代表団として、国際問題について非公式協議から積み上げ、採択に至るまでの国連の多国間外交をロールプレイングにより体験できる

「神戸模擬安保理大会 2013」を開催するなど、地域に対して神戸大学ならではの学習機会を提供している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 兵庫県内の医療の向上に寄与し、へき地等のニーズに即したプライマリ・ケアに関する研究を行うために設置したプライマリ・ケア寄附講座を拡充し、公立豊岡病院に加え、新たに兵庫県立柏原病院にも研究拠点を設置している。

(診療面)

- 緩和ケアの診療レベルを向上させ、地域さらには我が国の緩和ケアの発展に資する医師などの医療人の育成に当たり十分な研修、教育を実施し、質の高い緩和ケアの臨床研究を行うため、「緩和支持治療科」を設置している。

(運営面)

- 他大学（計 11 大学が参加）との勉強会等を主導的に実施し、診断群分類についての在院日数、医薬品等使用状況及び主要検査の実施状況等について比較分析を行うとともに、これらの比較分析結果を各診療科に提供し、各診療科において入院中の検査の見直し等を行うことにより、費用の削減につなげている。